

## 地域医療等対策特別委員会会議録

開催年月日	平成28年9月14日（第3回）					
開催の場所	浜名病院 会議室					
開閉会時刻 並びに宣告	開 会	午後 3時13分	委員長	佐原 佳美		
	閉 会	午後 4時16分	委員長	佐原 佳美		
出席並びに 欠席議員  出席 8名 欠席 1名  〔凡例〕 ○は出席を示す ▲は欠席を示す ●は公務欠席を示す	氏名	出欠	氏名	出欠	氏名	出欠
	福永 桂子	○	島田 正次	○		
	菅沼 淳	○	牧野 考二	○		
	土屋 和幸	○	二橋 益良	▲		
	高柳 達弥	○				
	佐原 佳美	○				
	竹内 祐子	○				
説明のため 出席した者の 職・氏名	浜名病院院長	具 栄作	相談室主任	鈴木 織江		
	本部長	小林 浩久	リハビリテーション科技士長	菅野 武志		
	事務長	佐々木康好	居宅介護支援センター職員	山下 耕司		
	看護部長	平土 栄子				
	看護師長	高須美奈子				
職務のため 出席した者の 職・氏名	係 長	村越 正代	書 記	三浦 梨紗		
会議に付した事件	別紙のとおり					
会議の経過	別紙のとおり					

傍聴議員：神谷 里枝

# 地域医療等対策特別委員会会議録

平成 2 8 年 9 月 1 4 日 (水)

浜名病院 会議室

湖西市議会



[午後3時13分 開会]

○**島田副委員長** 皆さん、こんにちは。本日は御多忙のところ御参集いただきましてまことにありがとうございます。それでは委員長、開会の御挨拶をお願いします。

○**佐原委員長** それでは、ただいまから第3回地域医療等対策特別委員会を開会いたします。

本日は、この特別委員会といたしまして、初めて市役所の外に出向かせていただきまして、地域で御苦勞をさせていただいております医療機関の皆様のお声を聞かせていただくという初回になります。御多忙のところ、また、夏のお疲れの出るころ、お忙しい中たくさんの資料をつくっていただきましてありがとうございました。順次こちらの通告もさせていただいたところもありますが、資料に沿って御説明をいただきたいと思ひます。

一括で、こちらでお示ししたことをお聞かせいただきまして、最後に挙手ということで質問をさせていただきたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

傍聴の議員といたしまして、本日、神谷議員が傍聴させていただいております。特別委員会のメンバーは、あと1人所用でおくれてまいります、全部で9名でございます。議員は18人の定数で半分、半分で別の特別委員会と、こちらの委員会となっております。では、具院長先生、御挨拶をお願いします。

○**具浜名病院長** 院長の具です。初めましてという議員の方が多くと思ひます。何回もお見かけした方もおりますね。ちょっと済みません、僕は物すごく忙しくて、今走り回っているのですよ。今ちょっとおくれて来ました。医者不足というのが、この地域の深刻な問題でもありますね。湖西には、開業医はそれなりにいると思ひますけれども、うちもしかりで、一人一人に対してというのはある程度、疲弊しそうな今状況なわけなのですけれども、きょうは佐原委員長から、こういう委員会の中で、ぜひ一回、浜名病院の実情とか内容を聞かせてくれというような申し出がありまして、担当者といろいろと用意して準備いたしました。聞かれたところはいろいろ理解していただければ、1回目ぐらいとしたら成功だと思うのですけれども。特に何が聞きたいというのははっきりわかりませんが、一応用意してありますので、あと討論の段階でいろいろ御質問をいただければ、心を開いて何でもお話しいたしますし、また、こちらの本音のところの要望もいっぱいあるわけです。何度か聞いていただいて、市当局に圧力をかけてという思ひは、これは半分冗談ですけれどもね。そういうようなところも、言いたいこともあるのですけれども、なかなかからちが明かないので。そういうことで、きょうは実のある会議になればと思ひます。よろしくお願ひします。

○**佐原委員長** では、着座にて失礼いたします。通告と先ほど申し上げましたが、まずは貴医院のサービス内容を教えていただきたいということ、それと数的なものとか、金額的なものとか、そういう実績を教えていただきたい。そして3番目に、先ほど、「半分冗談ですが」と言われた院長先生の市に対する要望。私たち議員は、あくまでも市民の立場で、行政の立場ではございませんが、私たちがやはりサービスの最前線にいる方の御苦勞をキャッチして、現場にいる方たちも市民ですので、本当にお互いに接点が見つかるように改善していくために、特別委員会として提言できるような情報を、きょうはいただきたいと思ひております。

では、御説明のほうをよろしくお願ひいたします。

○**佐々木事務長** 私、事務長の佐々木と申します。よろしくお願ひいたします。

まず、全て名札を用意することができなかつたものですから、まず簡単に、当院のきょうのメンバーを紹介させていただきますのでよろしくお願ひします。私の向かって右です。看護部長。

○**平土看護部長** 看護部長の平土です。よろしくお願ひいたします。

○**佐々木事務長** 具院長の隣が法人本部になります。常務理事です。

○**小林本部長** 浜名会常務理事の小林です。よろしくお願ひいたします。

○**佐々木事務長** それと相談室の。

○**鈴木相談室主任** 相談室の鈴木織江と申します。よろしくお願ひします。

○**佐々木事務長** あと同じ看護部になります。師長。

○高須看護師長 病棟師長の高須と言います。お願いします。

○佐々木事務長 当院のリハビリ関係の責任者です。

○菅野リハビリテーション科技士長 リハビリテーション科の菅野と申します。よろしくお願ひいたします。

○佐々木事務長 その隣、居宅介護系の事業所の責任者です。

○山下居宅介護支援センター長 居宅介護支援センターの山下です。よろしくお願ひいたします。

○佐々木事務長 以上、本日の私どものメンバーです。よろしくお願ひいたします。

それでは私のほうから、まず冒頭簡単に、当法人、病院が中心になるかと思いますが、御紹介をさせていただきたいと思ひます。着座にて失礼いたします。

封筒を御用意させていただいておまして、その中に当院浜名病院のパンフレットと、あと関係の事業所として介護老人保健施設のまんさくの里、それと昨年オープンしました当院の健診センター、この3点のパンフレットを入れさせていただいておまして、あわせて当院の広報誌であります「浜風」の最新号を入れさせていただきました。それと文書にて医療法人浜名会の概要ということで用意させていただいておまして、その概要を一度ごらんください。これを使って簡単に実績も含めながら紹介をさせていただきたいと思ひます。

あと、きょう参加させていただいているメンバーの事業所、職員に関しましては、私の後に紹介をさせていただいて、実績も踏まえて、そのときに本日の内容としていただいております、現在抱えている課題だとか市への要望ですね。地域医療に対する今後の期待と課題、要望も含めてお話をさせていただきたいなというふうに思っておりますのでよろしくお願ひいたします。

そうしましたら、まず浜名会、病院を含めての概要について説明をさせていただきますので、6ページからなっておりますので、一部時間も限られますので抜粋して説明をさせていただきます。

まず、医療法人浜名会、法人の設立が平成3年7月23日、理事長は具 栄作ということで、運営施設としまして、当院、浜名病院を初め訪問看護ステーションはまな、浜名居宅介護支援センター、浜名デイサービスセンターなどで、それから介護老人保健施設まんさくの里と、当法人はこのような運営施設があります。

それからその下ですね。浜名病院に関して、開設は昭和60年11月3日ということであります。病床数は現在177床、一般病棟が89床、10対1の入院基本料、療養病棟44床、療養病棟入院基本料1、これが20対1ですね。それと介護療養病棟も44床、こちらのほうが前回できました介護療養型機能強化型のAという基本料を取得いたしております。合わせて177床です。

それから診療科に関しましては、現在14科有しております。職員数220名、患者の簡単な実績といたしまして、入院1日平均在院患者数は27年度実績ですが135名、それから外来の1日平均、外来患者さんは204名、それからデイケアですね。当院であります、こでまりと言ひますが、1日平均33名のデイケアの利用数であります。

それからめくっていただいて、2ページは飛ばさせていただきますして3ページです。中間あたり、併設施設といたしましては、先ほど申しましたように、通所リハビリテーションセンターこでまり、これは院内に併設されております。それから浜名病院健診センターが、この館のすぐ隣になりますが、健診センターを併設しております。

それから医療圏といたしましては、主に湖西市は当然のことながら、それと豊橋市ということになるのでしょうか。

以上ということで、病院の概要ですが、それから簡単な沿革について質問したお話をさせていただきますと、昭和60年、開設当初50床でスタートいたしました。それから60年12月に救急医療機関としての指定を取得、それから一番下の62年10月ですね。68床の増床ということで、118床ということでした。それから、めくっていただきまして4ページの間あたりですかね、平成17年7月、病院新築移転ということで137床になりました。それから平成26年3月、西館等竣工ということで、26年4月には西病棟ということで、40床を増床いたしまして現在の177床という規模になっております。

それから、その下の平成27年3月には、浜名病院健診センター開設ということであります。

それから5ページに行きまして、関連施設になりますが、ちょっと、この場所から離れたところにありますが、岡崎に介護老人保健施設まんさくの里、入所定員100人、それから通所リハビリテーションとして定数49名で稼働をいたしております。利用状況に関しましては、27年度の実績、1日平均、入所の利用者様が91名、通所リハビリに関しましては、1日平均41名という実績でありました。

それからその下、訪問看護ステーションはまな、こちらのほうも平成12年2月より稼働をいたしております。利用状況といたしましては、月平均、27年度324件の訪問の数の実績があります。

それから最後のページに行きまして、浜名居宅介護支援センター、こちらは、ちょうど責任者がおりますので、話をさせていただきます。それからその下、浜名デイサービスセンターなでしこ、いわゆるデイサービスですね。こちらのほうも平成17年10月1日に開設いたしました。定員が15名、27年の実績でいきますと、1日平均11名の方に利用をいただいているということでもあります。

私のほうからは以上ですが、この後につきまして、看護部のほうから簡単な紹介の話をよろしく申し上げます。

○平土看護部長 済みません。ちょっと資料が手元にないのですが、看護師は現在156名の看護・介護の職員で、夜勤体制2人体制で行っております。一般病棟と医療療養病棟、そして介護療養病棟ということで、医療介護をやっております。

病床数は先ほど、事務長のほうからお話がありましたとおりでございます。最近手術、整形、外科ともに、毎週手術件数ではなくなりましたが、それでも外科、整形の件数は月に20件ぐらいはやっております。ほとんどが地域の皆様の高齢者の方ですので、整形にとっては大腿骨頸部骨折とか、消化器系に関しては胃がんの方とか、そういう方たちの手術が行われております。後は、それぞれ自宅へ帰る前のチェックのところでの在宅療養の準備段階というような患者さんたちがお見えになっておりますので、在宅支援というところで、最近力を入れて頑張っていこうということで進めております。そして訪問看護につなげながら、全体で地域の皆様に還元できるような包括運用システムを築いていきたいなと考えているところです。

○佐々木事務長 続きまして、相談室のほうから、実績も踏まえてよろしく申し上げます。

○鈴木相談室主任 相談室は医療福祉相談室と地域連携室と兼ねて、社会福祉士2名、あと総合案内を含めての事務員1名の3名で業務をしております。主な業務の内容としては、業務報告に書いてあるとおりなのですが、外来患者様、入院患者様、中には浜名病院のかかりつけではない患者様からの相談もあるので、そういった方は外来のほうに件数としては含んでいますが、受診に対する支援だとか、あと御自宅で生活するためとか、御自宅で生活できなくなってしまって、施設の紹介をしたりとか、介護保険制度や身体障害者の制度などの紹介なども主に行っています。ここ最近、患者様はもちろんなのですが、患者様を支えるキーパーソンというか、御家族の方の支援も含めてお手伝いすることがふえたかなと思います。また後で話が出るかと思うのですが、入院日数にも限りがありますので、御自宅に帰られてからの医療とか福祉制度との連携など、力を入れてやっております。在宅医療がやはり不足しているせいで、お家に帰れるはずの方が施設に行くとか、療養型の病院に行くというケースもふえているかなと思います。業務内容としては、以上です。

○佐々木事務長 では続きまして、リハビリのほうから申し上げます。

○菅野リハビリテーション科技士長 お手元の資料で、カラーのグラフのある資料があるのですが、当浜名会では、外来のリハビリ、入院リハビリと、通所リハビリですね。あと、訪問看護のリハビリと老人保健施設のリハビリ、通所・入所等ありまして、セラピスト、理学療法士、作業療法士を合わせますと27名ほどで、大きな組織として動いております。

当浜名会は、まず、市の行政からの依頼で、今、介護予防事業の教室を行ってはいるのでありますが、平成21年から事業のほうを重視しております。実績のほうはグラフで出しましたけれども、非常に実績も出ておりまして、非常に参加された方々の満足度や、よくなったよという報告を受けております。ぜひ今後も85歳以上の高齢者がどんどん

ふえていくというところで、特に80歳から85歳の方がほとんど入院している、ほとんど要介護としているという状況にありまして、85歳の方がどんどんふえていって、それ以下の年齢層というのは、ほとんど横ばいで、納税層がどんどん下がっていくという人口分布になっていくと思われまので、ぜひこういった方々が介護予防、あと重症化の予防といったところも踏まえて、ぜひ積極的に予防事業のほうも展開していけたらなと思っております。

まだまだ地域の生活支援団体ですとか、他のところが、まだまだ活性化しているようには思えません。特に藤枝市や富士市などは、すごく積極的にそういったところの生活支援団体とも活発に活動しておりまして、そういったところに理学療法士や作業療法士が入って、運動健康の指導とか認知症の予防とかも展開している市はあります。ぜひ湖西市にも、そういったところを活発化していきたいと思っております。もちろん私どもも理学療法士、作業療法士をこちらに派遣していただけたら、フォローアップとか助言などもできますので、そういったところの予算配分も少し考えていただけたらなと思っております。ぜひ、健康寿命の延伸かつ在宅支援活動を湖西市で力を入れていけたらなと思っております。

資料の2ページになるのですけれども、やはり在宅支援、在宅復帰といったところが強くこれから進めていかなくてはならない課題かなと思っております。特に湖西市は製造業の方々が多いものですから、夜勤をやっている方、介護がなかなか日中できない。本当は家に帰れるのだけれども、家族の不安とか、少しできないことで在宅になれない方々がたくさんいらっしゃいます。これから納税者がどんどん減って、医療介護財源がどんどん減っていく中で適切にマネジメントをして、より質の高いリハビリテーションを提供して、安心して在宅へ帰れる環境をつくっていかなくてはならないと私は思っております。

特に湖西市の浜名病院は、特に在宅支援にこれから力を入れていきたいと考えています。地域包括ケア病棟というのがあるのですけれども、より在宅の比率を高め、質の高いリハビリテーションのできる環境を構築し、ぜひそういったところに力を入れていきたいということを考えております。実績のほうもグラフのほうを見ていただくと、こういった患者様がどこに退院したかということで、去年1年間の実績を載せました。できるだけこの青い部分ですね。在宅に帰れるようにしっかりと支援していける体制をつくっていききたい。地域包括ケアシステムを、ぜひ、当浜名会を中心としてネットワークを築きながら、他の医療施設・介護施設と連携を深めてリハビリテーションの質を上げていきたいと思っておりますので、そういったところの支援とか、援助がいただけたらなと思っております。

3枚目ですね。地域ケア会議というのがあるのですけれども、市の地域ケア会議がなかなか活発に開かれているようには、まだまだ思えない状況であります。地域ケア会議とはどういったものかと言いますと、ケアマネジャーさんが主で、いろいろな多職種が共有して、マネジメントをして適切なサービスであるかどうかという勉強会を兼ねて会議をするものであると思います。なかなかこの課題を発見したりとか、いろいろな多職種が共有してマネジメントして、例えば、要支援の利用者さんが、こういったことができて、こういったことができないのかというところをしっかりとマネジメントして、入浴ができないから入浴サービスを与えましょうではなくて、何ができるのかということをしかりとマネジメントして、適切なサービスかどうか予測をして、適切な支援がお客様に、利用者様に還元されているかということをもマネジメントしていかないと、やはり市の財源は限りがありますから、そういったところをしかりとマネジメントしていきながら、2025年も2040年も見据えて、そういったことも地域の活動を活発にしていけたらいいかなと私は考えておりますのでよろしく申し上げます。

○佐々木事務長 続きまして、居宅系の代表といたしまして、山下のほうから。

○山下居宅介護支援センター長 A4の紙を見ていただけたらと思いますが、居宅介護支援センター、いわゆる在宅において要介護者の方を支援していくところであります。平成27年4月に法の改正がありまして、先ほど相談室の鈴木のほうからも、その人単体の相談であるとか、家族を含めてというのがありますが、このごろ非常に如実にそれが多いです。例えば、御家族の方が精神的な疾患を持っているだとか、1人で暮らしているのですけれども、遠くで家族の方が病気でいるとか、我々は本当にグローバルに相談を受けております。特に4月から多かったのは、やはり介護

保険というのは1割負担が主なのですが、2割負担の方は、これは所得に応じてという形の方が多いのですけれども、2割負担になって、ちょっと払えないという方も、実際には話を聞いております。所得が多いから2割になったのだからと思いつつも、ちょっと私のほうでは制度的なことは何とも言えないというお話をさせてもらっている部分があるのですが、ここの部分が、今言ったみたいな全部グローバル的に抱えた相談が多いものですから、我々がいわゆる介護保険とか、老人福祉だけではなくて、もう家族福祉というもので今非常に、これも日本介護支援専門協会が中心になって、そういうふうな勉強をしていかなくてはいけないのではないかとことを言われております。基本的には相談を受けたときに、よりよい適切な介護系サービスにつなげる。また、インフォーマルなボランティア組織のようなものにつなげていって、その方が自立した生活ができるようにしていくというのが、我々マネジメント、また、プランナーの仕事だと思っております。プラス多岐にわたっておりまして、非常に資質の向上をしていかなくてはならないというふうに思っております。

大体そういうところですが、後ろのほうに、もう1枚参考資料として、2025年問題は皆さんも御存じだと思いますけれども、書いておりますので見ておいていただければと思います。

以上です。

**〇佐々木事務長** 以上、簡単な紹介をさせていただきました。

**〇佐原委員長** では、要望等はどうかですね。3番目のお伝えしてある。今リハビリは、要望も兼ねてということですが。

**〇佐々木事務長** そうですね。当院の課題と新規予定に対して求めるものということで、課題といたしましては、本当に山積しておりますが、制度改正等もありまして、当院はリハビリのほうから話しましたが、地域包括ケアについて、この地域としてやはり必要でしょうということで、この地域は特におくれているというような形で感じておりますので、湖西病院さんとの兼ね合いもあります。当院といたしましても法人全体で一通りといいますか、事業サービスを持っておりますので、こちらの資源をできる限り有効に活用していくためには、地域ニーズを踏まえて、地域包括ケア病棟というものをつくり上げていこうということで、それに向かって今この177床であります。その病棟の再編という形で今やっておりますけれども。

それから市への要望といいますか、行政に対してといいますか、今年度3月だと思うのですが、静岡県のほうから地域医療構想というのが出ております。この地域医療構想の中では2次医療圏というのがございまして、2次医療圏を中心に、その構想を組んでいこうというふうな話になっているかと思うのですが、2次医療圏というものが、各8医療圏、多分、静岡県があるわけなので、2次医療圏が、例えば、浜松市とこれ湖西市なので、全体の人口で見ますと、27年度実績で、たしか85万人ぐらいの規模になっているかと思っております。中での湖西市、実際に住民はどうかというふうに見てみますと、6万人弱ぐらいだと思うのです。そうするとパーセンテージでいくと、92%とか10%以下の湖西市における2次医療圏での人口から見ただけですけれども、そういう感じだということで、それを市に地域医療構想ということで、いろいろな病床機能の報告制度とかありまして、機能の制度を4つに分けて急性期だとか、慢性期、回復期ということで、それに関して2次医療圏で見ると、急性期が非常に多くて、利用量も多いよということで、一緒にたにされてこの湖西市も見られてしまうのは、いかなものかなということで、ちょっとじっくりこないのではないかなと思います。

実際に湖西市の患者様、住民の方々を見てみますと、地域的な問題もあるかと思うのですけれども、浜名湖が始点として、浜松のほうへ医療的な資源を求めるといっても、やはり湖西市を中心とした、どちらかというと、豊橋市のほうにも医療資源が分散していると思うのです。ですので、なかなか2次医療圏だけで考えられて評価をして、それに加えて今後の湖西市も含めた地域で包括のシステムを組もうというのは、少しか無理があるのかなという感じがして、その辺、湖西市としてはどのように考えていらっしゃるのかなということが1つあります。

それと、昨年度から湖西市の方々は、在宅医療を含めて介護の連携の支援センターというのをつくって



いうお話がございましたが、当院といたしましても医療資源を使いながら、いつでも協力体制ができるような形で組みさせていただいておりますので、こういうものも市民の方々の声があるかと思っておりますので、進めていきたいなというふうに思います。ただ、それに関しましては、いろいろな経済的な支援と申しますか、そういうものもできればお願いをしたい。湖西病院さん同様お願いをしたいという部分があるかと思っております。

実際、あと支援センターにつきましては、浜松市だとか藤枝市でしたかね。実際に稼働し始めているという声も聞きましたので、そういうことからすると、ちょっと湖西市においては立ちおけている部分があるのかなというふうに思います。

**〇具浜名病院長** 一応、うちの説明はこれだけなので、先生方から何か質問とか、理解し切れないところとか、うちの病院の内情とか、気楽に聞いていただかないと話が絡み合わないと思っておりますので、どうぞ。

**〇佐原委員長** 今、病棟等はりハビリと、佐々木事務長さんのほうからお聞きしました要望というか、行政側の動きに対して、こんな思いですというお話は聞かせていただきましたけれども、後は質疑する中で、院長先生のお気持ちとか、先ほどちらっと、どうですかね。院長先生、3点目の課題が浜名病院を運営するに当たって、もっとこうやってもらいたいみたいなものがあれば、3点目は教えてくださいというお願いをしておいたのですが、よろしいですか。

**〇具浜名病院長** 3点目は、初めから出ている地域医療に対して、行政の要望というかですね。例えば、浜松市などは、保健所などは、いろいろな医師会などでも、浜松市の人が参加できる、そういう会があるのですよ。そういうのに参加して聞いてみると、さらに熱心で、頑張っておられますね。こちらからも、もちろん参加されるのですけれども、余り元気がないと。医師の数字は出すのだけど、実感として元気がないという感じです。日常的に医師会には市の職員、健康増進課の事業に参加されてきて、そういう話を、これしてください、これしてくださいと、例えば、小児の予防注射に協力してください。当直の当番を決めますとか。そういうことで、実技的なことは確かにいっていますので、それで結構決まっていますけれども。強力なイニシアチブというのですか、発信が余りないですよ。お医者さんに何かえらい遠慮しているという感じがいたしますね。この地域の地域構想を市はこうやっていくから、先生方はこういうところをよろしく願いますという、そういう具体的な提案が、まずないですね。ほとんどゼロ。ずっとないです。一時期は救急医療の問題で、開業医も協力していきましょうということで、何回も話し合いをしましたよね。一時期は、開業医はもう嫌だから、ここの病院と湖西病院と交互でこうやると。ここに開業医が詰めて、順繰りに詰めてやるというような話も出ていた。非現実的だったのですけれども、そこまでの話が出たことがあるのですけれども。でも開業医で改善してやっていこうと、平日、祭日だけでなく、平日の夜もやっていこうとということで、何回も医師会事務所でやりまして、市の職員も参加してくれて話し合ったのですけれども、それも一部の医師会の医師の反対とか、やれないとかいうことで、市の職員も押し切られたというような感じでペアになってしまっていて、何回も参加しましたよ。やろうという人たちが言っているのに、市はやろうと、ではやってくださいということで予算をつけても、そういう感じになったのですけれども。

例えばですよ。だから、本当の地域包括医療システムの構築の問題でも、ほかの担当者の人も言っていますね。早くお医者さんたちの協力を仰いで案を出すなりしてやっていかないと、また常に浜松を見てとか、掛川を見てとか、よその市を見てという形で、常に後追いですよ。という感じの姿勢、またかよという感じですね。自分たちの案を持って強力にやっていこうという、お願いしますという、根底においては皆さん協力的だと思うのですよ。でも市が旗を振らないから、では、その程度だねという感じで終わってしまうのですね。それは常々感じますね。いろいろなところでそう感じます。

例えば、緊急医療の問題もそうだけど、災害対策。当院も災害拠点病院になっていますけれども、何回言っても、やっとなそこに緊急輸送路もつくってくれましたけれども、中身も、総合訓練も一時期1回は来ていただいてやっとな。市長が来て、見に来てくれましたけれども、こちらはこつこつやっているのですよね。ですけれども、中心になる本部の積極性を感じない。残念な形で、湖西病院問題で疲弊してしまっているかなと。その問題はほとんどそれで、

愚痴は聞きますよ。だから浜名病院もお願いしますねという感じでもっていかれる。それでおしまいになってしまう。けど、そうやって短期でとつてもできませんよというのが本当の部分なのですよ。

○佐原委員長 ありがとうございます。先生方、お忙しいところもありがとうございますので、質問がありましたらお願いします。

○竹内委員 今すぐ、これからのことを考えると在宅医療介護に重点的に向けていくために、リハビリテーションのほうに力を入れておられるということで、今現在27人のスタッフでやっていらっしゃるというお話でありました。このリハビリテーションのほうは、高齢者がメインになっていて、朝から要は1日リハビリを受けることができるのかということと、訪問して在宅でのリハビリも何件か受けていただいているのかということを知りたいと思います。

それと先ほど、地域サロンのほうでも、もっと質の高いものを含めていけば、在宅支援のほうにも向いているのではないかなという報告があったのですが、そのサロンのあり方はどんなものなのか。もし案があれば聞かせていただきたいなと思います。

○菅野リハビリテーション科技士長 朝からリハビリされているというのは、外来、入院。

○竹内委員 そうですね。

○菅野リハビリテーション科技士長 外来の患者様は朝から診療は行っていますけれども、やはり今、社会保障がどんどん苦しい締めつけがありまして、今、社会保障自体が抜本的に変わっていくという時代、リハビリテーションも期限が定められたりですとか、条件がいろいろあると思うのです。全ての患者様に全てリハビリテーションを提供するというのは、なかなか難しい状況ではあります。高齢者がほとんどかということなのですが、当浜名病院のリハビリテーションを利用されている平均年齢は81から83歳ぐらいの方々がほとんど。平均年齢が83ということで、ほとんどが高齢者ですね。特に病院で多いのは頸部骨折、大腿骨の骨折とか血管障害、脊椎の骨折、そういった患者様が多くいらっしゃいます。

サロンですね。健康運動、健康寿命を延ばしていきたいというのが私の考えで、やはり健康寿命を延ばせば医療費や介護保険料の削減ができるわけです。ですからそういった地域の生活支援団体とか、社会保障の区域から外れた場所をもうちょっと活性化して、そこに我々理学療法士とかがそこに来て指導してください、応援してくださいよというところで予算配分いただければ、一応業務の合間に行くわけですから、いつでも、どこでも行けるというわけではありませんので、そういったところでフォローしたりですとか、介護予防事業を展開する、そのときだけ運動して、あと家に帰ったら結局やっていないとか、その後のフォローアップなども継続してやっていくべきでしょうし、ほかの市などで地域のサロンとかにもネットワークを築いて、定期的に介護予防事業をやったら、今度そういうサロンを紹介したりとか、サロンの方々が介護予防事業と一緒に参加して「一緒にどう」とか、そういうまちづくりといいますか、そこへ理学療法士や作業療法士などが入って、今後、認知症などもすぐふえてくと思いますから、患者様のほうが少しでも予防ができるような体制のまちづくりができればいいかなと、私は思っております。

○竹内委員 健康寿命を延ばすためには、やはり日ごろからのだんだん老化して動かなくなっていく身体を少しでも動ける状態に持っていくために、できれば各地域に軽運動ができるようなところを設けておいて、そこへ少し、できたら指導してくれる人みたいな人がそこにおられて、常日ごろそういうサロンのようなものが、いつ行ってもできれば健康寿命が延びていくよということですね。余り医療費を使わずにやっていけるという形ですね。

○菅野リハビリテーション科技士長 そうですね。日ごろからの運動が在宅支援をする際に、運動されていた方、動いていた方、活動されていた方、社会参加をされている方はやはり元気なですね。すぐに復帰できる場所もあります。やはり今、暮らしはどんどん元気になっている、食が豊かになっている。だから人が動かなくなっている。ですからこういった動く場所をどんどんつくってあげないといけませんし、やはり高齢者が65歳の、厚生労働省は高齢者の定義を60歳から70歳にしようかと言っています。やはり60歳を過ぎても働く方はたくさんいらっしゃいますよね。そういった就業率というところも上げていけたら本当はいいかなと思います。やはり予防事業をもっともっと見てい

って、これからどんどん高齢者がふえていって、つまり税金ばかり上がってしまうわけですから、そういったところをもっと力を入れていただけたら、個人的な意見かもしれないですけども、そういうところに、もし浜名会にも理学療法士さんに来てくださいということで、派遣とか予算配分していただけたら、私どもも全面的に行きたいと思っておりますし、とは考えております。

地域包括ケアシステム、それが本当の国の狙いかなということで、できるだけ医療・介護費をマネジメントして、生活支援団体、社会保障のないところもしっかりと活性化して、国は地方ならではの特性を生かしたネットワークを築きながらうまくやってくださいという仕組みをつくったわけですね。うまく地方で動かしてくださいということで、ぜひその辺、御理解願った上で考えていきたいと思えます。

○竹内委員 はい、そうですね。先進地事例を見に行くと、意外とそういうところは、荒川にしても、御調町でもリハビリに力を入れていますので、そこのところはよく理解しました。浜名病院さんも、そういうことでやっていくということがわかりました。

もう一つ、伺いたいのは、今常勤の先生は何名いらっしゃって、このところで見たときには、昭和60年のところだと常勤の先生が8名でというふうになっていたと思うのですが、今現在は何人の先生で回されているのでしょうか。

○小林本部長 済みません。今言われました昭和60年というのは、どちらの資料から言われたのでしょうか。

○竹内委員 書いてなかったですか。

○小林本部長 医療法人浜名会代表というところの、浜名病院という項目の、開設は昭和60年11月3日なのですけれども、医師数のところを見ていただきますと、常勤医師8名、非常勤31名、常勤歯科医師2名、済みません。これは平成28年4月1日現在です。

○竹内委員 済みません。わかりました。今現在、常勤の先生が8名で非常勤が31名で、歯科医が2名で、今のこの病院を回されてといると。

○小林本部長 そういうことです。

○竹内委員 はい、よくわかりました。8名で、これだけできているというのが確認できて、わかりました。了解いたしました。

それと救急のほうも浜名病院さんが受け入れてやっただけでいるのですけれども、湖西病院は救急体制が大変だと、すごく言われているのですが、この常勤の先生8名という形の中で、うまくローテーションというか、要は先生のお休みになられる時間がなくなってしまうよということをよく聞かれるのですけれども、どのようにうまく回していらっしゃるのでしょうか。

○具浜名病院長 この8名の中には、当直はやらないという先生もいるんですよね。だからもっと少ないわけです。よそから頼むというか、当直医ということで、当直だけをお願いします。

○竹内委員 救急のほうですか。

○具浜名病院長 医師の専門性があるでしょう。例えば、小児科の救急を断ったりとか、婦人科はもちろんないのですけれども、例えば、整形の先生が「腹が痛い」って言えば診てくれるし、自分も整形だからということで診てくれる、こちらもということで、全部受けたいのですよ。そうやって始まる当初は、自分も若かったころは、どんどん当直をやっていましたし、いろいろな患者さんをどんどん診ていましたけれども、今の若い先生はかなり難しい。もし医療事故につながったらどうしてくれますかと、そういったような問題もあって、苦しいところですね。湖西病院もいろいろ愚痴が出るかもしれませんが、こっちもいっぱいだと。それはある程度、医師の良心と現場での判断ですね。自分はよそへ回したほうが良いと。より高次の病院へ回したほうが良いという判断は、その先生の判断ですからね。うちで診られるではないかと思うときもありますよ。ですけど、回すということもありますけどね。できるだけ受けるとことは基本なのですけれども。

○竹内委員 わかりました。

○具浜名病院長 声を大にしたいのですけれども、やはり医師の確保は非常に厳しい。特に救急に関しては厳しいので、もうぎりぎりという感じです。

○佐原委員長 ほかに、どうでしょうか。

○具浜名病院長 本当にそういう外から多くの当直医を招聘して頼んでということがあります。その人たちは、また次の自分の病院へ入るといって、常勤医で朝早く出ていく、医師のいない状態をなくすために、6時に出てしまうと、常勤医が6時に出勤してくるわけですね。そうすると常勤医の負担が物すごく多くなってしまいますよ。また、例えば6時にこちらへ着くといっても、向こうの常勤の状態で8時に来ると、待機するお医者さんが、常勤医です。いらいらして怒れてしまうということがあります。自分の生活も崩れるし、そういう非常に矛盾を抱えて、何とか空白を起こさないようにという形でやっている。やはり多くの金を積まないと、極端に言うのですよ。来てくれないのです。そういうこともあって、救急だけの単独で取り出して差し引きすると、大きく赤字になってしまいますね。その日は救急なしですと、断ってしまったら収入ゼロですね。ですけれども、人件費はかかるのです。そういうトータルしたらすごく赤字になっている。それを苦勞しながら、何とか確保しているというのが現状です。実際に、そのことも大分数年前ですね。話をして、少し補助金をいただいていますけれども、それでも足りないです、はっきり言って、うちはね。もっとくれということは言いたくないけど、何とか根性で言ってないのだけど、こうやっているという実情を知ってもらいたい。

○佐原委員長 では、土屋さん。

○土屋委員 3つ聞きたいことがあるのですけれども、まず医療福祉相談室の相談件数が多いのですけれども、これは1人の患者さんが繰り返しての相談も。

○鈴木相談室主任 はい。延べになっています。

○土屋委員 それと、こういう相談は結構難しい相談が多いのですけれども、完結する確率というか、そういうのはどのぐらいの完結の仕方ですか。ほとんど完結してしまうのか。

○鈴木相談室主任 なかなか病院の中だけで完結するというのは難しいので、お家に帰られてからでしたら、居宅のケアマネジャーさんにつなげるとか、施設へ行かれるようでしたら、施設につなげる、行政につなげるとか、なかなか完結は難しい。橋渡しをしたり、長くおつき合いしたりですね。

○具浜名病院長 一番忙しい部門です。

○土屋委員 同じ人から何度もあるとか。

○鈴木相談室主任 はい。あります。

○土屋委員 ありますよね。だから大変なのですよね、あれね。1人の人が、家族の相談もあるかもしれないし、本人からも相談もあるし、それも遠方から身内がいれば、その人からの相談もあるかもしれないし、1人の患者さんに対していろいろな注文が出てくる。そういった中で調整して、完結というのは難しいでしょうけれども、とりあえず病院としては、ここまでやりましたというような形で処理していくという、そういうことですね。

○鈴木相談室主任 そうですね。はい。一個解決すると、また次の課題が出て、退院されて落ち着いて生活ができるとなっても、また、その方のおばさんとか、お父さん、お母さんと出てしまうので、一旦終了という感じですかね。

○土屋委員 わかりました。これは大変だなと思って、すごく件数が多いので。自分の中では信じられないぐらいの件数だなと思います。

それと事務長さんにお聞きます。先ほど浜松のほうでは、支援センターも開設されているよという。僕はよくわからないけれども、支援センターというのは、どういうことを、どういうふうに行っているのが支援センターというのか。

○佐々木事務長 これは、もともと市のほうから相談いただいて、いわゆる在宅医療介護の連携の推進ということで、平成30年4月、これももとを正せば地域医療構想につながってくるかと思うのですけれども、この地域医療構想から

平成30年4月までに、おのおの実施してくださいよというものが8種類ぐらい項目別でおりてきているかと思うのですね。それもなかなか市のほうから議員さんたちに伝わらないということが、そういう質問が出てくること自体が、悲しいことなのかと思います。これが浜松のほうでは3月に立ち上がりましたということで、浜松市在宅医療介護連携相談センターができておりますね。

**○土屋委員** これは浜松市がやるわけですね。

**○佐々木事務長** そうです。市の運営です。それからは委託として浜松医療センターで稼働しているらしいのですけれども、やはり、こういうセンターが中心となって今後の地域医療が、地域包括ケア病床だとか、病棟のシステムづくりのかなめといいますか、イニシアチブをもって先導していくというようなところになるわけですけれども、こういうもので医療と介護、福祉の連携を進めて、その地域に特化したサービスを展開していくというふうな選択、位置づけで、これを当院にお話をいただいた時期があったのですけれども、ちょっとそれから、頓挫してしまっているところがあったかと思うのですね。このセンターは、それと今、浜松と申しましたが、藤枝に。県内では5月ぐらいの話だったと思いますので、その時点で2つの市において稼働を始めていると思います。ただ、浜松のセンターのほうに話を聞きますと、これは山下のほうが詳しい話をしているかと思うのですけれども、なかなか手さぐり状態の中で始めているので、それでも私は、最初はいいと思うのですね。やはり始めることが大切で、ああだ、こうだということ、なかなか立ち上げないというところに問題があるというふうに思っていますので、やはり最初は手さぐり状態の中で、右も左もわからない中で、実際に求められる医療とか、必要な医療、介護、福祉というのはどういうものなのかという、具体的なものが見えてくると思っていますので、まずつくって、いろいろと展開していこうという考えは大事なのではないかなと思っていますのですけれども、山下さん、どうですか。浜松市の状況、一回話を聞いてこられたわけですね。

**○山下居宅介護支援センター職員** そうです。28年1月4日に浜松の医療センターの中にできたわけなのですけれども、実際には、平成30年までということなのですけれども、支援センターという名前で書いてありますけれども、実際には医療と福祉の部分の架け橋というところで、なぜかといいますと、介護部門とか福祉部門が医療機関に対しては、いわゆる敷居が高い。なかなか私とか相談員の鈴木とかは、ずけずけ開業医の先生のところに行ったり、話をしたりすることができるのですが、なかなか一般の介護士さんの人が医療機関の先生のところに、うちの病院もそうなのかもしれないかもしれませんが、なかなか難しいということで、その架け橋となるところでつくりましょうという形で、いわゆる医療機関と福祉施設とのケアマネジャーとの架け橋ということで、そういうようにやっていって、強く連携ができるのではないかということで、国は指名したと思います。

国はあくまでも公共的な病院につくってほしいと。ですから、湖西市でいいますと湖西病院へというふうなことだと思うのですが、なかなかどういうことかあれですけれども、私のところのほうの話といいますか。ですので、実際に今1月4日から支援センターが浜松医療センターの中に入っているのですけれども、今結構、相談事務のほうを行ってきたということなのですが、例えば、往診医を探してほしいとか、教えてほしいとか、あと、あそこの歯医者さんはどういうことをやっていますかということ、直接聞けないことを医療センターへ聞いてくるということ。それをまた市民の方に還元していくということで、相談が多くなってきたということです。また、相談を受ける人間の資格要件としても、介護支援専門医だとか社会福祉士とか看護師というものが必要になってくるという形になっております。大体今のところは、そんなところです。

**○土屋委員** そうすると、先生に対してみんな遠慮があるというのが実際だと思うのですね。そうすると、支援センターをやるときに、一番先頭になって旗を振ってもらうのは、ドクターの方にやってもらうのが一番いいわけですね。

**○山下居宅介護支援センター職員** そうです。浜松の支援センターも、センター長はドクター、医師でやっております。

**○土屋委員** 最後に教えてください。2次医療圏の話が出たではないですか。浜名病院としては、どういうふうに考

えると一番いいのかなというのは。

○佐々木事務長 やはりに2次医療圏として考えると、湖西市としての特化した地域包括ケアシステム構想を含めたものが、2025年というところが目標になるのですね。本当に毎年、毎年整備をしていくとか、実際の市民の方に近い形のものになればなと思っていますが。浜松市のほうがかなり高度急性期だとか、急性期が多いように今言われています。それから慢性期、この3つが多いように言われているのですが、実際に湖西市に関しましては、湖西病院さんと私どものところしかないわけで、それがそのまま地域医療構想に反映されるというような考え方は、ちょっとなかなかそぐわないのではないかなということです。

○土屋委員 ありがとうございます。僕はこれでいいです。

○小林本部長 反対にお聞きしたいのですけれども、今言われました在宅介護連携支援センターの感じでは、市としてはどこまで、議員さんたちも、今どこまで話が出ているのですか。

○佐原委員長 私たちにも、やはりスケジュールは示されていますけれども、浜名病院さんに打診しているとか、そんな情報は知らなかったねという、今私語をしてしまいました。委員会にも。

○小林本部長 結局、そちらも強く言われているわけでもないものですから。子どもはどうしても受け手側なものですから、どこまで対応していいのかわからないという中で、「あれ、ちらっと言われたけど、どうなのかな」と、だから結局進まないという状況なのかなと。

○佐々木事務長 委員長が言うように、一人で動いてしまっているという感じ。それがばらばらで、ある程度まとまってくるといいものになるのかなと思うのですけれども、別の会で湖西市の医療介護多職種地域連携研修会というのがありますね。今いろいろところで動いているかと思えますけれども、そういうものがお互い連携感を持って、一体感を持ってやっていくといいのかなというふうに。そういうところをぜひ市役所さん側に旗を先導して引っ張っていただければ、もっと早くに理想に近い形のものができるのではないかなと思います。

○佐原委員長 私たちは、常任委員会というのは特別委員会とは別で、福祉教育委員会という、福祉の委員長ですが、竹内委員が。それと総務経済委員会と建設環境委員会という、常任委員会が3つあるのです。特別委員会というのは、他の話題を1例なり、2例なりとか決めて、今回もこの特別委員会は本年度から9人の希望者で立ち上がったのですけれども、そんなような中で常任委員会のほうも委員長は知らなかったというか。ただ、文書を見ればありますよ。スケジュールの中には。こうやって地域包括支援システムを構築していくのだという中にはあるけれども、具体的なことはよほど勉強して、個人、個人が一般質問等でやらなければ、見出されない情報だったかなというのは、お聞きする中でいろいろありました。

お時間が、先生たちもお忙しいかと思しますので、また別にこれで最後というわけではありませんので、また、いろいろと聞きたいこともありますし、連携を密にしながらやっていきたいと思いますが、御質問のほうは以上でよろしいでしょうか。

○具浜名病院長 湖西病院との話し合いはしたのですか。

○佐原委員長 あした行きます。病院側は大きな病院として2つ、後は、まんさくにも伺いますし、グループホーム、特養、地域包括支援センター、医師会、歯科医師会というところで、薬剤師会というところ、全部で9つの事業体と情報交換をしようと計画して、きょうは初日ということです。

○具浜名病院長 湖西病院は介護とか、そういう分野に不熱心でしょ。テレビに出るような医者みたいな、ああいうような病院を、現実はそのようなものはごくわずかで、御老人のちょっとした介護とか、そういったものが多いので、病院というのは、そういうものを抜きにしては語れない時代になりました。そういう点をしっかりと議員の皆さん方も認識していただきたいなと思います。現場はそういうことでやっているというのを知っていただきたいと思います。手術の様子などテレビでしょっちゅうやっていますよね。ああいう格好よさというのは懂れているのですけれども、こういう地方の病院はなかなか、大都市の大病院では違うかもしれませんでしょうけれども。そういうことで、よろ

しくお願ひしたいと思ひます。

○佐原委員長 そうですね。ありがとうございます。たくさん情報をいただくことができました。また、今後ともよろしくお願ひいたします。

では、これで会議を閉じます。長時間ありがとうございました。

〔午後4時16分 閉会〕

湖西市議会委員会条例第28条第1項の規定により署名する。

委員長 佐原 佳美